

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	グローバル人材育成のための実践的英語養成カリキュラムの構築とその定着	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	総合工学系研究科、理学部、工学部、農学部、繊維学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	全学教育機構言語教育部門(英語)	
実施責任者(所属)	平林 公男 (繊維学部応用生物)	
取組の目標	理系4学部の学生が国際標準であるTOEIC試験を在学中に最低1回は受験し、自己の英語力を客観的に認識して、能動的学修に基づいてグローバルに活躍できる高度専門職業人を育てる仕組みを学内に構築すること。その第1歩として、各学部により異なるが、広報による周知、受験率を上げる、高年次におけるカリキュラム化、高学年次におけるモチベーションの維持方法、能動的学修法の検討と拡大、TOEIC-SWの積極的な受験。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 農学部が1年生全員にTOEIC試験の受験義務化をスタートさせた。(繊維、工学に次いで3学部目。次年度は理学部も加わる。) 2. 理学部においてはH27年度(次年度)1年生全員TOEIC受験の準備のための検討を行い、成績評価に反映させる仕組みなどについて決定をした。 3. 各キャンパスにおいて、TOEIC試験・学習法に関する講演会を実施。 4. SUNSを用いて、高年次向けに開発したe-Learning教材(米国公共放送PBS作成の科学技術をテーマとするコンテンツをベースとしている)の内容とその使用法についてFDを行った。 5. 能動的学修を推進するためにALC NetAcademyの使用の手引きを増刷し、配布/拡大を行った。 6. 繊維学部においては、H27年度2年次以上の高学年を対象に「実践的スピーキング/ライティング英語演習」(学部共通科目、選択、2単位)を前期、後期で開講し、通年で学習できるカリキュラムを決定した。 7. 繊維学部においては、高学年次の学生のモチベーション維持のために、学部長表彰制度をスタートさせた(努力賞、ベストスコア賞;4月のガイダンス時に表彰)。 8. 繊維学部においては、NetAcademyを講義前に学修させ、講義時に確認テストを行い、そのスコアを成績に反映させたり、不振者については個人的に直接指導をするなどの取り組みを開始したため、成果の見られる課程が現れ始めた(2年間でスコアが上がった学生が半数以上)。 9. 国際コミュニケーション協会が主催するTOEICに関するセミナーに参加した(国の動向、他大学・企業での取り組みなどに関する情報収集)。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	a. 達成できた ○b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた	(そう評価する理由)H27年度には全理系学部の学生がTOEIC試験の受験が義務化され、他学部(教育学部や経済学部)でも同様の動きが見られることから、学生が在学中に自己の英語力を客観的に認識する機会が得られてきていると思う。英語に触れる機会をつくるために英語カフェのような取り組みも4学部で実施され、モチベーションの維持のための取

(達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	d. おおよそ達成できなかった	り組みも始まった。カリキュラム化も一部進み、成績評価にスコアを反映させる仕組みについても一部学部で前進した。
	e. 達成できなかった	(今後の展望) 高学年次におけるモチベーションの維持が課題であり、能動的学修(システムは構築済み)にどのように一部の学生でなく、多くの学生を導いていくのかが最大の課題である。